



NO. 796
 発行
 13・8月30日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 関川 和彦
 編集責任者
 教 宣 部

全国大会一般討論②

●貨物の賃金抑制、1・1ヶ月の回答は社長の賃金抑制の動きなどで、この回答になったのではない。職場の厳しい状況、社員の生活は厳しくなっている。借金の返済が出来ない状況だ。

労働組合の役割、国労の闘いは重要だ。団交で要求の申し入れ、中央行動の参加、要請行動など展開している。ピラを配布し他労組へも訴えている。賃下げをさせない、抗議集会を開催した。国労の目に見える運動を進め、他労組へも訴えている。



線路使用料170億円、これをどう改善、社会的問題にしていく。組織拡大し組対会議を定例開催し目標達成に向けて取り組んでいる。レクなど開催し他労組へも訴え呼びかけている。職場では組合説明会、歓迎会など開催し国労加入を呼びかけて訴えている。
 (東京)

●JAL 交渉支援・年末物販で「そら」の焼酎を販売した。キャラバン行動では4日間で48本販売した。JAL 解雇撤回の闘いを国鉄闘争と同様に取り組んできた。

中国運輸局へ解雇問題について要請したが、飛行機は駄目だと断られたが(部署が違う)大阪航空局を紹介され要請した。難しかったが要請行動は実現した。地域が支援する組織は重要な役割を担っている。

オスプレー配備反対の取り組みを進めている。訓練が強行されている。7月28日に配備反対の集会を開催、参加を呼びかけている。
 (広島)



●安全問題より事故発生がマスコミでも報道されている。4月エンジン火災・7月に同様の事故が多発、火災の発生が多い。車両、設備故障が発生している。

脱線事故より車輪の「ヘン磨耗」が脱線につながった。冬季の気象状況や動物の飛び出しによる非常ブレーキなどが原因だ。車両数が少ないことや財政上から設備へのメンテナンスができない。会社は黒字達成を中心に考えている。



技術継承より年齢構成が高齢によってできていない。高卒の採用をしていない。新採者の採用を増やし、60歳以上の雇用改善を提案。技術継承・設備改善、そして労働条件改善を取り組んでいく。

安全・安定輸送を取り組んでいくことが重要課題だ。事故の多発で深刻な状況が続いている。組織拡大し緊急課題として取り組んでいる。具体的な行動、新採者への訴え、行動をつないでいくことは困難だが拡大を実現していくため頑張っていく。(北海道)

国労本部新役員

- 中央執行委員長 石上 浩一 (総括・政治・共闘)
- 中央執行副委員長 田中 博文 (組織部長・法対部長)
- 書記長 真子 俊久 (企画部長・教宣部長)
- 中央執行委員 鈴木 郁夫 (総務・財政部長、貨物・組織・共闘担当)
- 小池 敏哉 (業務部長・総務担当)
- 星野 高志 (業務・貨物担当)
- 井村 好博 (政治・業務・調査担当)
- 会計監査員 内田 昌裕
- 三宅 明
- 馬橋 博一

●職場の実態より職場は外注化・委託化が進んでいる。要員の削減が続いている。契約社員の雇用不安・パラハラなどある。契約社員のJR正社員へは、20%くらいしか採用されていない。労働条件改善と正社員化実現を求めていく。

60歳以上の再雇用について業務が厳しく低賃金だ(エルダー社員)。仕事内容など限界になっている。身体にも不安を感じる。駅の業務委託が進んで、年々職場が委託化されている。11箇所が委託された。

組織拡大し重要だと認識している。職場で会社にもが言える状況にしていくこと。青年にも一緒に行動していくことを訴えていく。
 (東京)



(裏面に続きます)

分会活動と拡大行動は密接なものだ。国労運動を訴えていくこと。職場が委託化され労働強化・関連会社の雇止め・貨物の賃下げについて改善を求め実現する取り組みを進めていく。職場の問題を一致させた要求を進めていく。

JAL争議・不当解雇・解雇撤回の闘いは重要だ。労働者の連帯を訴え、実践できるのは国労だ。キャラバン行動が日本海ルートで取り組まれる。ぜひ成功させよう。10・25中央集会成功に向けて。

連合加盟について、我々の課題が前進するか。地域共闘はそれぞれの地方によって違う。今、連合加盟はどうするのか。加盟すべきではない。(秋田)



●福島第1原発事故・現状について放射能除染作業が進んでいない。線路への除染が進んでいない。放射能の測定は必要だ。労働環境を考慮して改善していかなければならない。

拡大し組対会議で意思統一し拡大行動に組合員の参加を訴えている。新採獲得行動を7年間取り組んでいく。全体の組織拡大経験交流会を開

催した。国労加入の呼びかけを積極的に取り組むこと、仲間をつくることを意思統一した。9月22日に組織拡大総括会議を開催する。

貨物の1・1ヶ月夏季手当の低額回答は許さない。貨物の構造矛盾の改善・貨物労組の対策・賃金抑制攻撃について、闘いを強化していく。貨物社員を支える運動を訴えたい。(水戸)

大会の目目

大会2日目は9時に開会しました。代議員58名中58名の出席が確認されました。今年の大会は代表討論が行われず、すべて一般討論となりました。

●組織拡大し4名の拡大、そのうち新採者は1名拡大した。世話だけでなく職場活動を取り組んだことが国労加入につながった。他労組から労働組合名について質問された。国鉄の名称について。名称が国労でなければ加入していた。

組織の考え方、連合加盟について課題になっている。今後の運動を継承していくのに連合加盟を考慮していかなければならない。

他労組の動向し役員と組合員との隔たりが。役員の追及の恐れを感じながら悩み相談がある。役員と組合員とのクサビを国労が打つ。

●関連会社への組織化、プロパーへの国労加入を訴えていく。学習会の開催、いろんな企画、集会の開催などへ参加を呼びかけている。プロパーの正社員化の取り組みを強化していく。(東京)

●支援共闘会議でホーム関係の事故防止対策についてアンケート調査を実施した。要請行動も実施、ダイヤ改正時など要求の申し入れ、改善を図ってきた。利用者アンケート調査を今後も実施し闘いの交流、運動を進めていく。

拡大し闘争指令1号が出されて意思統一し拡大行動を展開してきた。青年労働者を含め3名の拡大達成した。機関全体で取り組み、成果と反省を繰り返して意思統一を進めている。(静岡)

●仕事総点検し現場で草刈の作業について、ケープルの切断が発生している。安全対策の強化を求めているが作業環境が変わらない状況で安全作業を考えると労働強化になると感じた。

ナショナルセンターし連合には行かない。独自の運動では厳しいから地域共闘は重要だ。広範な運動を展開していくこと。全国的には共闘運動はどうなっているのか。国労としてどれが望ましいのか。(米子)



●拡大し今年の2月に36歳の青年が国労加入を決意した。国労の先輩達との信頼関係が大きな要因だ。

共闘しJAL争議支援を取り組んでいる。物販・オルグ・集会の開催など行動を展開している。

さまざまな課題を地域共闘から、国労が先頭に立って闘っていく。解雇撤回、労働条件改善へ地域からしっかり闘いを進めていこう。

●運輸協議会では5地本交流会を開催し他地本との交流を深めることで闘いを進め強化している。(千葉)



●拡大し1名国労加入した。4年ぶりの加入だった。貨物の関連会社のプロパー社員。3年前に信州ロジに配属され、国労とのレク、駅伝大会など参加し活動してきたつながりから国労加入となった。

●新採対策は地本で3月に組対会議組織拡大経験交流会を開催した。国労加入のきっかけは真剣に悩み相談のつてくれたこと。あきらめずに真剣に取り組んだこと。

●新採者の名簿漏洩事件があった。会社は事実はないと回答、個人が名簿を流した。北陸新幹線開業に伴う並行在来線問題について富山でシンポジウムを開催した。160名が参加した。各地方の取り組みや現状が報告された。(長野)

●貨物問題し会社側の謝罪行為は駄目なのか、大衆行動の実施など国労本部の取り組み姿勢を示して欲しい。JRの事故や貨物の賃金抑制など早急に対策して取り組むこと。単一組織としての闘い。ストを背景にして闘いを進めること。

●拡大し目標にはほど遠い。高崎は4名の拡大。東労組脱退者に対して東労組の追及行動は厳しく組織戦となっている。本部へ支援要請している。現場は厳しい状況で闘っているが要請にこたえているのか。本部・エリアは消極的な態度ではないか。単純な拡大行動でなく難しい。(高崎)

●拡大し3名の拡大を達成した。1月に組対会議を開催し10%の目標にして本気で取り組み意思統一した。国労の運動は正しいが会社から差別されるためGS社員は正社員になつてから加入を考えたい。(近畿)

●東日本大震災し厳しい実態だ。原発事故で住民が住めない状況だ。水戸は除染作業が進んでいる。診察も実施されている。支社によって対応が違う。年間20シーベルトの避難区域・除染作業がズサン・レベルが低下されなくても実績だけあればいい。健康手帳発行の要請。街は地震後まったく復興できていない。(仙台)

●全国大会の特集になりました。内容について不十分なところがあると思います。「国鉄新聞」が発行される詳細に編集されると思います。そちらを御参照ください。よろしくお願ひします。地本教宣部